

安全データシート

作成 2010 年 7 月 2 日

改訂 2024 年 4 月 1 日

1. 化学品及び会社情報

化学品の名称	アサヒボンド 5 5 6 L 硬化剤
会社名称	アサヒボンド工業株式会社
住所	東京都板橋区大谷口北町 3-7
担当部門	営業部
電話番号	(03) 3972-4929
F A X 番号	(03) 3972-4583
緊急連絡電話番号	(03) 3972-4929
推奨用途	鉄部のプライマーに限る。
整理番号	10142

2. 危険有害性の要約

化学品の G H S 分類

物理化学的危険性	引火性液体	区分に該当しない
健康に対する有害性	急性毒性 (経口)	区分 4
	急性毒性 (経皮)	区分 3
	急性毒性 (蒸気)	分類できない
	急性毒性 (粉じん/ミスト)	区分 3
	皮膚腐食性/刺激性	区分 1
	眼に対する重篤な損傷/眼刺激性	区分 1
	呼吸器感作性	分類できない
	皮膚感作性	区分 1
	生殖細胞変異原性	区分 1
	発がん性	分類できない
	生殖毒性	区分 1
	特定標的臓器 (単回ばく露)	区分 2
	特定標的臓器 (反復ばく露)	分類できない
誤えん有害性	分類できない	
環境に対する有害性	水生環境有害 短期 (急性)	区分 1
	水生環境有害 長期 (慢性)	区分 2

上記で記載がない危険有害性は、区分に該当しないか分類できない。

G H S ラベル要素

注意喚起 危険



危険有害性情報

- (H302) 飲み込むと有害
- (H311) 皮膚に接触すると有毒
- (H314) 重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷
- (H317) アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ
- (H318) 重篤な眼の損傷
- (H331) 吸入すると有毒
- (H340) 遺伝性疾患のおそれ
- (H360) 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ
- (H371) 臓器の障害のおそれ
- (H400) 水生生物に非常に強い毒性
- (H411) 長期継続的影響によって水生生物に毒性

注意書き

【安全対策】

- (P201) 使用前に取扱説明書を入手すること。
- (P202) 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
- (P264) 取扱い後は手をよく洗うこと。
- (P260) 粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸わないこと。
- (P270) この製品を使用する時に、飲食又は喫煙をしないこと。
- (P271) 屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
- (P272) 汚染された作業衣は作業場から出さないこと。
- (P273) 環境への放出を避けること。
- (P280) 保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。

【応急措置】

- (P304+P340) 吸入した場合：空気の新鮮な場所に移し呼吸しやすい姿勢で休息させること。
- (P311) 医師に連絡すること。
- (P302+P352) 皮膚に付着した場合：多量の水と石鹸で洗うこと。
- (P333+P313) 皮膚刺激又は発しんが生じた場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P303+P361+P353) 皮膚(又は髪)に付着した場合：直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。皮膚を水で洗うこと。
- (P361+P364) 汚染された衣類を直ちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
- (P305+P351+P338) 眼に入った場合：水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合には外すこと。その後も洗浄を続けること。
- (P310) 直ちに医師に連絡すること。
- (P301+P330+P331) 飲み込んだ場合：口をすすぐこと。無理に吐かせないこと。
- (P301+P312) 飲み込んだ場合：気分が悪いときは、医師に連絡すること。
- (P308+P313) ばく露又はばく露の懸念がある場合：医師の診察/手当てを受けること。
- (P314) 気分が悪いときは、医師の診察/手当を受けること。
- (P391) 漏出物を回収すること。

【保管】(P403+P233) 換気の良い場所で保管すること。容器を密閉しておくこと。
(P405) 施錠して保管すること。

【廃棄】(P501) 内容物や容器は国・地方の許可を受けた産業廃棄物業者に委託し廃棄すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	混合物			
化学名又は一般名	変性脂肪族ポリアミン			
	危険有害成分	濃度(重量%)	CAS 番号	官報公示整理番号
	メチルピリジニアミン	1～8	1477-55-0	(3)-308
	フェノール	1未満	108-95-2	(3)-481
	その他	非開示	不明	非開示

4. 応急措置

吸入した場合	被災者を空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。医師の診断を受けること。
皮膚に付着した場合	直ちに汚染された衣類をすべて脱ぐこと。汚染した衣類を再使用する場合には洗濯すること。多量の水と石鹼で洗うこと。 皮膚刺激又は発疹が生じた場合は、医師の診断を受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。コンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が続く場合は、医師の診断/手当を受けること。
飲み込んだ場合	安静にして直ちに医師の処置を受けること。嘔吐物は飲み込ませないこと。 医師の指示による以外は無理に吐かせないこと。
応急措置をする者の保護に必要な注意事項	救助者は保護手袋や保護眼鏡などの保護具を着用し、衣類や手につかないように注意を払うこと。

5. 火災時の措置

適切な消火剤	
小火災	粉末消火剤、泡、二酸化炭素、乾燥砂
大火災	粉末消火剤を用いて空気を遮断する。
使ってはならない消火剤	情報なし
火災時の特定の危険有害性	火災によって刺激性、腐食性又は毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ、容器を火災区域から移動する。物質を拡散させてはいけない。 関係者以外の出入りを禁止する。
消火活動を行う者の特別な保護具及び予防措置	消火の際には有毒なガスを吸い込まないように呼吸用保護具等を着用し風上から作業を行う。

6. 漏出時の措置

人体に対する注意事項	直ちに全ての方向に適切な距離を漏洩区域とし隔離する。関係者以外は近づけない。
保護具及び緊急時措置	作業者は適切な保護衣を着用し、皮膚への接触やガスの吸入を避ける。

適切な保護衣を着けていないときは破損した容器或いは漏洩物に触れてはいけない。

風上に留まる。低地から離れる。密閉された場所は換気する。

環境に対する注意事項 河川等に排出され、環境中へ影響を起ささないように注意する。

封じ込め及び浄化の方法及び機材

乾燥した土、砂或いは不燃性物質で吸収し、或いは覆って容器に移す。

危険でなければ漏れを止める。

二次災害の防止策

全ての発火源を取り除く（近傍で喫煙、火花や火炎の禁止）

排水溝、下水溝、地下室、或いは狭い場所への流入を防ぐ。

7. 取り扱い及び保管上の注意

取扱い

技術的対策 「8. ばく露防止及び保護措置」に記載の設備対策を行い保護具を着用すること。

安全取扱注意事項 取扱い後は、手、顔等をよく洗い、うがいをすること。

屋外又は換気のよい場所でのみ使用すること。

作業手袋、保護衣、保護眼鏡、保護面、保護マスク等を着用すること。

粉じん、煙、ガス、ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。

環境への放出を避けること。

接触回避

「10. 安定性及び反応性」を参照。

衛生対策

取扱い後は、顔等をよく洗い、うがい手洗いをすること。汚染された作業衣は作業場から出さないこと。

保管

安全な保管条件 容器を密閉し30℃以下の風通しのよいところで施錠して保管すること。

安全な容器包装材料 表面処理された鋼板、或いはステンレス容器に保管する。

8. ばく露防止及び保護措置

許容濃度

日本産業衛生学会（2020年版） メタ-キシリレンジアミン 設定されていない。

フェノール 5ppm

ACGIH（2009年版） メタ-キシリレンジアミン TLV-STEL 0.1mg/m³ 皮膚急性あり。

設備対策

気中濃度を推奨された管理濃度・許容濃度以下に保つために、局所排気装置を設置する。

取り扱い場所の近くに、眼の洗浄及び身体洗浄のための設備を設置すること。

保護具

呼吸用保護具 防毒マスク（有機ガス用）

手の保護具 不浸透性（耐油性）の保護手袋

眼、顔面の保護具 保護眼鏡又は安全ゴーグル

皮膚及び身体の保護具 長袖保護服、長靴、前掛け

特別な注意事項

取扱い後は顔等をよく洗い、うがいすること。この製品を使用前に、飲食又は喫煙をしないこと。汚染した衣類を再使用する場合は洗濯すること。

9. 理的及び化学的性質

物理状態、色	淡褐色液
臭い	アミン臭
融点/凝固点	データなし
沸点又は初留点及び沸騰範囲	データなし
可燃性	可燃性である。
引火点	138℃
自然発火点	データなし
分解温度	データなし
pH	データなし
溶解性	芳香族炭化水素系溶剤、ケトン類に可溶。
n-オクタノール/水分配係数	データなし
蒸気圧	データなし
密度及び/又は相対密度	比重 0.96(23℃/4℃)
粘度	50~100mPa・s(23℃)
相対ガス密度	データなし
粒子特性	データなし

10. 安定性及び反応性

反応性	炭酸ガス、酸性物質、過酸化物、エポキシ化合物、イソシアネート化合物等と反応する。
化学的安定性	密閉状態で安定性であるが、長時間の空気との接触では変質する。
危険有害性反応可能性	炭酸ガス、酸性物質、過酸化物、エポキシ化合物及びイソシアネート化合物と反応する。
避けるべき条件	過度の加熱。空気及び水との接触。
混合危険物質	強酸化剤、酸性物質、エポキシ化合物、イソシアネート化合物、過酸化物など。
危険有害な分解性生物	アミン類、アンモニア、燃焼等による一酸化炭素、窒素酸化物等。

11. 有害性情報

急性毒性(経口)	飲込むと有害(区分4)
	変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他の成分を含む原料 区分4
	メタキシリレンジアミン 区分4 ラット LD50 660-980mg/kg
急性毒性(経皮)	皮膚に接触すると有害(区分3)
	変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他の成分を含む原料 区分3
	メタキシリレンジアミン 区分4 ウサギ LD50 2,000mg/kg
急性毒性(粉じん、ミスト)	吸入すると有毒(区分3)
	変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他の成分を含む原料 分類できない
	メタキシリレンジアミン 区分3 ラット LC50 4時間: 0.8mg/L
皮膚腐食性/刺激性	重篤な皮膚の薬傷及び眼の損傷(区分1)
	変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他の成分を含む原料 区分1
	メタキシリレンジアミン 区分1

動物への影響；モルモットの皮膚に原液の適用で腐食性があるとの記述あり。
 ラットの皮膚に原液の適用で3分後に皮下出血、5分後に壊死が認められ60分後に6匹全例に皮膚の紅斑、浮腫、出血、壊死が認められるとの記述から腐食性がある。

眼に対する重篤な損傷性/眼刺激性 重篤な眼の損傷（区分1）

変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他成分を含む原料 区分1
 メタキシリレンジアミン 区分1 動物への影響；本物質は皮膚腐食性物質に区分されている。

呼吸器感作性又は皮膚感作性

呼吸器感作性 分類できない

皮膚感作性 アレルギー性皮膚反応を起こすおそれ（区分1）

変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他成分を含む原料 区分1
 メタキシリレンジアミン 区分1 日本産業衛生学会皮膚感作性第1群

生殖細胞変異原性 遺伝性疾患のおそれ（区分1）

変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他成分を含む原料 区分1
 メタキシリレンジアミン 区分に外当しない 哺乳類培養細胞を用いる染色体異常試験で陰性。

発がん性 分類できない

生殖毒性 生殖能又は胎児への悪影響のおそれ（区分1）

変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他成分を含む原料 区分1
 メタキシリレンジアミン 区分に外当しない ラットを用いた経口投与簡易生殖毒性試験において親動物に一般毒性が認められる用量でも殖毒毒性が認められていない。

特定標的臓器毒性(単回ばく露) 臓器の障害のおそれ（区分2）

変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他成分を含む原料 区分2
 メタキシリレンジアミン 区分1(肺) 区分2(全身毒性)

ラットに4時間吸入ばく露(ミスト)による急性毒性試験で、0.74 mg/L以上の濃度で細気管支炎、肺泡マクロファージの凝集、時に滲出性炎症のような様々な程度の肺の炎症性変化が多くの動物で見られたと報告され、更にラットに1.74~6.04 mg/Lの濃度で1時間吸入ばく露(ミスト)による別の試験では影響がガイダンス値区分1の濃度範囲まで及んでいることから区分1(肺)としている。

一方、ラット及びマウス急性経口毒性試験では自発運動の低下など観察され、死亡例ではさらに運動失調と努力性呼吸が現れたとされ、標的臓器の特定が困難なため区分2としている。

特定標的臓器毒性(反復ばく露) 分類できない

誤えん有害性 分類できない

12. 環境影響情報

生態毒性 変性脂肪族ポリアミンとメタキシリレンジアミンとフェノールとその他の成分を含む原料

は急性毒性・慢性毒性とも区分3。

	メタ-キシリレンジアミン	藻類(セネデスマス)の72時間EC50 = 14mg/L
	フェノール	甲殻類(ネコセミジンコ)の48時間LC50 = 3.1mg/L
残留性・分解性	変性脂肪族ポリアミンとメタ-キシリレンジアミンとフェノールとその他の成分を含む原料はデータなし。	
	メタ-キシリレンジアミン	BODによる分解度；49%
	フェノール	BODによる分解度；85%
生態蓄積性	データなし	
土壌中の移動性	データなし	
生態蓄積性	データなし	
オゾン層への有害性	成分はモントリオール議定書の付属書にリストされていないので分類できない。	

1 3. 廃棄上の注意

残余廃棄物	廃棄は、関連法規並びに地方自治体の基準に従うこと。 都道府県の許可を受けた産業廃棄物処理業者、若しくは地方公共団体が処理を行っている場合はそこに委託し処理する。 処理を委託する場合、処理業者等に危険性有害性を充分告知の上処理を委託する。
汚染容器および包装	容器は清浄にしてリサイクルするか、関連法規並びに地方自治体の基準に従って適切な処分を行う。空容器は内容物を完全に除去してから処分する。

1 4. 輸送上の注意

国連番号	2 7 3 5
品名 (国連輸送名)	アミン類又はポリアミン類 (液体) (腐食性のもの)
国連分類	8
容器等級	III
海洋汚染物質	該当(Y 類 フェノール)
国内規制	
陸上規制情報	消防法該当、規定に従う。 指針番号 1 5 3
海上規制情報	船舶安全法の規定に従うこと。
特別な安全対策	輸送に際しては直射日光を避け、容器の破損、腐食、漏れ、転倒が無いように積み込み、荷崩れ防止を確実に行うこと。 食品や飼料と一緒に輸送してはならない。

1 5. 適用法令

消防法	危険物第4類第3石油類 危険等級III
化審法	既存化学物質リストへの収載、他規制非該当
化学物質管理促進法(PRTR法)	非該当
毒物及び劇物取締法	非該当

労働安全衛生法

名称等を通知すべき有害物	メターキシリレンジアミン、フェノール
名称等を表示すべき有害物	メターキシリレンジアミン、フェノール

皮膚等障害化学物質	メターキシリレンジアミン
-----------	--------------

労働基準局長通達(基発第 477 号の 2) エポキシ樹脂の硬化剤の主成分表示：変性ポリアミドアミン

海洋汚染物質防止法	該当(フェノール)
-----------	-----------

船舶安全法	腐食性物質(危規則第 2, 3 条危険物告示別表第 1)
-------	------------------------------

航空法	腐食性物質(施行規則第 194 条危険物告示別表第 1)
-----	------------------------------

16. その他の情報

JAIA-005386 F☆☆☆☆登録製品です。

主な引用文献	1) JIS Z 7253(2019)	日本規格協会
	2) 原料メーカー発行の安全データシート	
	3) 日本化学工業協会「緊急時対応措置指針」	

この情報は、新しい知見に基づき改訂されることがあります。

記載内容は現時点で入手できた資料・情報・データ等に基づいて作成しておりますが、含有量、物理・化学的性質、危険・有害性等に関しては、いかなる保障をなすものではありません。また、注意事項は通常のご取扱いを対象としたものであり特殊な取扱いの場合には、用途・用法に適した安全策を実施の上ご利用下さい。